

議委員会に附議して成案を得た。同年の県会は5ヶ年継続35万円（後に減額）の支出を可決したので、44年度からこの観光開発事業が開始された。

注(2) 各室の配置は次の通りである。

地階（ボーイ室・貯蔵室・調理室・厨房室・浴室・暖房室・トイレ）

1階（応接室・脱帽室・事務室・帳場・図書室・食堂2・酒場及び玉突場・喫煙室・婦人室・露台4・トイレ）

2階（寝室13・浴室2・トイレ3）

3階〔塔屋〕（展望室）

4階〔 〃 〕（ 〃 ）

資料 松島公園経営報告書（宮城県内務部）

松島町誌第2版

宮城県史第16巻

緑化の宮城行幸啓誌（宮城県）

13. 昔県北地方に降った赤い雪

問 昔、県北地方に赤い雪が降ったことがあるというが、いつのことですか。

答 旧記から拾ってみますと、次のようです。

天平14年〔742〕1月23日〔新暦3月8日〕黒川郡以北11郡平地2寸赤雪降る。

延宝5年〔1677〕1月13日〔新暦2月14日〕胆沢・江刺・玉造・加美諸郡に赤雪降る。

元禄5年〔1693〕12月10日〔新暦1693年1月15日〕加美郡に赤雪降る。

安永4年〔1775〕2月7日〔新暦3月8日〕江刺郡に紅雪降る。

なお、赤とか紅とあるのは、日常生活用語として赤い犬とか赤土とかいう場合の色で、色彩としての赤や紅ではありません。昔は、このような現象は確かに天変地異の一つとされたものです。しかし、これは今日でも春先に見られる黄砂現象で、たまたま雪に混って降ったため、特に目立ったのであって、裏日本の雪国などでは決して珍しいことではありません。⁽¹⁾

注(1) 中国北部の黄土地帯では冬期間、極端に雨が少ない。春の日ざしが強まるにつれ、黄土の表面が乾燥して飛散し易い状態になる。ここに寒冷前線が通過すると、強風によって黄土の砂塵が上空に巻き上げられ、4～5キロ上空のジェット気流に乗って日本列島上空に達し、ゆっくり降下する。この現象、降下する微粒の砂塵を黄砂という。そのまゝ降下すれ

ばスモッグ状態〔気象用語で煙霧〕、雨とともに降れば茶褐色の雨、雪にまじれば赤雪となる。北海道では、今も紅雪と呼ぶ。黄砂は春の訪れを告げる季節現象でもある。

資料 東藩史稿（作並清亮）

宮城県気象災異年表（仙台管区気象台）

14. 笹かまぼこの起り

問 仙台の名物になっている笹かまぼこは、いつ誰が作りはじめたものですか。

答 笹かまぼこは、はじめその形状から、べろ〔舌〕かまぼこ、または手のひらかまぼこと呼ばれたものです。明治 35、6年の頃、閉上から金華山にかけて、ひらめの大漁がつづき、消費地である仙台に盛んに運びこまれました。今とちがって輸送力も、保存設備も不十分な当時のことですので一山いくらでたたき売りされても、なお持て余す始末でした。そのような時、眼先のきく魚屋が、この贅沢な魚でかまぼこを作り出しました。その一人が、広瀬かまぼこ店の先代久六という人でした。⁽¹⁾ひらめかまぼこは香りや味は上等であるが、たらやぐちなどの身の硬い魚のように腰の強さがないのが欠点でした。そこで苦心研究のすえ、特に鮮度のよい材料を選び、鯉節で味をつけ、澱粉などの増量材を使わず、味醂・酒・砂糖・卵白等で練り合わせ、ぱりとした、保存のきく、しかも在来のものとは全く形状のちがうかまぼこの商品化に成功しました。各地で開かれた博覧会に出品してPRにつとめるなど、東京・大阪等かまぼこの本場物にもひけをとらないだけの好評を得るようになりました。商品名も、伊達家の紋章竹に雀からヒントを得て、笹かまぼことしたといえます。その後同業者も次第に殖えて今日に至ったものです。

注(1) 昔は、おもに竹串を芯として、白身の魚肉を筒形に巻き炙って作った。その形が蒲の花穂に似ていたので、かまぼこの名が出た。水産地仙台のかまぼこも古くからあったものようで、「貞山公治家記録」巻之36の寛永7年〔1630〕4月6日の条、徳川秀忠・家光を江戸桜田の上屋敷で政宗が接待した記事の献立の中に『カマホコ』があるのを見る。

資料 仙台魚風土記（佐々木喜一郎）

仙台事物起原考（菊地勝之助）